

行政視察報告書

令和5年11月28日

長浜市議会議員 中川 勇 様

長浜市議会議員 矢守 昭男



私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 新しい風 会派視察研修
2. 視察期間 令和5年11月22日(水) 11月24日(金)
3. 視察場所及び目的
 - ①福島県会津若松市
観光について
 - ②福島県仙台市
震災対策、復興支援について
4. 調査内容感想等

・視察の目的

福島県会津若松市の観光について

宮城県仙台市 仙台市立荒浜小学校の防災体制について

・視察内容

ARを活用した新たな観光客誘致に向けて

防災意識の醸成と防災体制と対策について

視察の目的

福島県会津若松市のARを活用した新たな観光客誘致に向けた取組や歴史文化を拠点とした若松城周辺の観光客誘致・市内活性化に向けた各取組について

長 浜 市 議 会

まず会津若松市においては、まちなか周辺事業としてサービスの利用をして幕末へのタイムスリップスマートフォン活用で街中を歩く事により新選組と共に観光客への対応の実施をされています。そうした音声ARと長浜市で行なわれていない取組として長浜城歴史博物館や小谷城歴史博物館等の再編計画でARの導入予定での参考となりました。

また会津若松市ではナイトタイムエコノミー推進協議会が主体となって夜間に滞在型対応の実施で宿泊先、宿泊者限定で 1,000 円から楽しめる個性的なお店(対象 30 店舗)で極上のはしご酒メニューで観光客へのサービスをされています。

実際に訪問させて頂きましたが、月に 370 件程や事業開始から 2 ヶ月間の体験者数が約 3,000 名の利用件数や地域のお店の方々のおもてなしサービスを体験して、顧客獲得に成功されていました、そこで長浜市の観光客誘致に向けての取組が出来ないか行政の事例パンフレットを持参してお伝えしました。

お城のリニューアルにより VR・ARを導入されて年間約 60 万人の観光客誘致に成功されています。

そこで歴史文化と観光客誘致、周遊等を結びつける市内広域での活性化させる拠点を目指して 20 代～40 代、若い世代を重視して取組をされ、また高齢者の方々の観光客誘致でオールシーズンを通して長浜市の観光客誘致で取組、推進される事業と考えて勧めたいと思います。

今後の ICT の活用については、地域の現状を把握しての話題性や効率化に向けての取組や企業への活用など検討をして課題解決に向けた取組を進める方策と考えられる。

インバウンド対策について

市内での宿泊者が約 25,000 人おられ、コロナ禍の中で海外旅行者(台湾、タイ、欧米諸国等)をターゲットした各近隣空港を活かした連携体制や海外出張、海外事務所を置き観光客誘致に向けた地道な努力、準備、取組が成果を出すなど長浜市にない事業展開をされていました。

そこで長浜市内各地の神社、城跡、観音菩薩、観光地巡りなど最大限に活用になる方策として事業展開できる取組を進めたいと思います。

2 次交通機関として会津ぐるっとカード事業においては、近隣の市町の鉄道、バス事業で乗り放題事業の実施や観光Maas 事業で年間約 5,000 名の利用件数が紙カードで旅行客への利便性を活かした取組をされていました。

今後については、長浜市も同じように少子高齢化もありますが、あらゆる分野でのチャレンジが可能な地域の現状を把握しつつ重点的に人材確保、交流人口の拡大、情報発信、デジタル化を含めた産官連携での取組や環境整備に取組を行きたいと思います。

今回の会派視察研修を受けて 20 代から 40 代の観光客誘致に取り組み体制強化として長浜城のライトアップを進化させての AR、VR を活用や、(仮称)小谷城戦国体験ミュージアムでの同じような取り組みとして、長浜市全域に対しての観光地巡りに生かすための有意義な視察研修となりました。

防災意識の醸成と対策について

宮城県仙台市荒浜小学校の防災体制については、1873 年から 2016 年まで宮城県仙台市若林区にあった公立小学校である校舎は 2011 年の東日本大震災で被災し損傷を受けた建物であり、2017 年 5 月より震災遺構として公開されています、そこで長浜市として地震発生から避難、津波、救助されるまでの経過や対応策について写真や映像で振り返るとともに、被災から学ぶ災害対策への備えについて学ぶ事が出来ました。

また児童を守るための日頃の避難訓練、防災育成プログラムなど参考となり、全国で、近年では多発する災害対策を長浜市の防災体制整備に活用すべき視察研修となりました。
